

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野		事業番号、事業名				補助・単独別		補助		建設部 河川課	
番号	みりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度末進捗率	進捗状況			
1	ゆかわ 湯川 なかかさいざわ 中軽井沢  (軽井沢町)	全体延長 L=1,760m 護岸工L=1,760m 橋梁工N=3基  〔工期:H1~H25〕	休止	休止	護岸工L=600m 橋梁工N=2基	評価時 (変更) H22	77%	しなの鉄道橋の橋脚補強について協議中である。国道18号から上流については、流出解析を行ったうえで、地元と調整が必要であり、H20年から休止。	しなの鉄道橋の橋脚補強について引き続き協議を行い、実施方法を検討していく。 国道18号上流部については、地元協議が必要となるため、H24年度は休止とする。 H24年度は引き続きしなの鉄道との協議を進める。国道18号上流部については、施工方法を地元と協議する。	上流域の実施方法 要検討。	「休止」
						必要性 B	特記事項 H20再評価「継続」 H24年以降は流下能力が不足している残区間の対応を検討し実施していく。				
						重要性 B					
						効率性 A	B/C(費用対効果)=2.3				
2	やてさわかかわ 矢出沢川 とまわぎ 常磐城  (上田市)	全体延長 L=1,000m 護岸工 L=2,000m 橋梁工 N=4基 市道付替工 一式  〔工期:H22~H31〕	市道付替工 1式	護岸工 L=140m 築堤工 L=220m	護岸工 L=1,590m	評価時 (当初) H22	36%	計画どおり進んでいる。 H22災害推進費による最下流工区の改修がH23にて完了。引き続き護岸工を実施する。	当河川は、これまでに度重なる浸水被害があり、平成22年8月2日にも甚大な浸水被害が発生したことから、早期河川整備に対する地元要望も強く、早急な対策が必要である。	重要性、緊急性が認められる。	「継続」
						必要性 B	特記事項 平成22年8月2日豪雨による災害対策等緊急事業推進費対応箇所。				
						重要性 A					
						効率性 B	B/C(費用対効果)=2.2				
3	もとめかわ 求女川  たなか 田中  (東御市)	全体延長L=1,170m 護岸工L=1,170m 護床工L=1,170m 橋梁工N=6基 床止工N=14基  〔工期:H3~H25〕	護岸工L=120m 護床工L=120m	護岸工L=140m 護床工L=140m ボックスカルバート工L=7m	護岸工L=280m 護床工L=280m ボックスカルバート工L=7m	評価時 (変更) H23	90%	計画どおり進んでいる。 平成23年度には90%が完了し、引き続き護岸工を実施する。	当河川は東御市街地を流れる急流河川であり、残区間はいずれも流下能力がなく、浸水被害防止の観点から継続とする。	上下流部との整合を図るため整備の必要性は認められる。	「継続」
						必要性 C	特記事項 H22再々評価「継続」・当河川は全区間において急勾配であり、残区間はいずれも現況の流下能力がなく、浸水被害防止の観点から事業実施が必要であるため事業継続。				
						重要性 B					
						効率性 B	B/C(費用対効果)=1.5				
						緊急性 B	住民参加状況等 地域住民による河川内の草刈りが毎年6月に実施されている。				

分野	河川の護岸築堤等	事業番号、事業名	16広域河川改修				補助・単独別	補助	建設部 河川課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況			
4	とがわ 砥川 あかぎな 赤砂  (下諏訪町)	全体延長 L=2,800m 護岸工 L=2,800m 橋梁工 N=2基 〔工期:H17～H28〕	護岸工 L=300m	護岸工 L=360m	護岸工 L=1,550m 橋梁工 N=1基	評価時 (変更) H21	46%	計画どおり進んでいる。 引き続き、下流から護岸工等を実施する。	下諏訪町の中心市街地を流下し、氾濫想定区域には下諏訪町役場や人家が連担しており、必要性が高い。天井川でありながら流下能力が極端に小さい箇所が多くあり、昭和初期の護岸も老朽化していることから緊急性が高く、早急に住民の安全・安心を図る必要があるため、継続とする。	必要性、緊急性が認められる	「継続」
		36億円	2億円	3億6800万円	19億4650万円	必要性 A 重要性 B 効率性 A 緊急性 A	特記事項 平成21年度の諏訪圏域河川整備計画の策定(変更)において、コスト縮減を図りながら事業を継続することが方針として示された。 B/C(費用対効果)=10.3 住民参加状況等 地元関係区等における河川愛護団体による美化活動が行われている。				
5	てんりゅうがわ 天竜川 しょうりゅう 上流  (諏訪市 岡谷市 下諏訪町 辰野町)	新川工区 河川改修工 L=1,100m 〔工期:H22～H30〕 南宮工区 管理用通路工 〔工期:H21～H24〕 辰野工区 河川改修工 L=4,100m 〔S37～H30年代〕 岡谷工区 河川改修工 L=7,316m 〔S39～H30年代〕	新川工区 詳細設計L=700m 橋梁詳細設計1式 用地測量 1式 用地補償 1式 南宮工区 橋梁上部工 1式 取付道路工 1式 護岸工 L=40m	新川工区 用地測量 1式 南宮工区 橋梁上部工 1式 取付道路工 1式 用地補償 1式	新川工区 用地補償 1式 本工事 L=1,100m 橋梁工 N=3基 南宮工区 橋梁上部工 1式 取付道路工 1式	評価時 (変更) H23	20%	計画どおり進んでいる。 H22より河川激特事業区間の上流部に着手。H23年8月に地元説明会を実施し下流区間の用地補償に着手した。	平成21年8月諏訪地域の大量災害時に大規模な床上浸水被害が発生したため、拡幅改修及び諏訪湖管理通路を整備することにより治水安全度の向上と防災能力を高める必要性・緊急性あるため、継続とする。	重要性は高く、緊急性も認められる。	「継続」
		358億9200万円	2億9410万円	2億1900万円	85億4550万円	必要性 B 重要性 A 効率性 B 緊急性 A	特記事項 (新川工区) H18年7月豪雨災害:河川激基災害対策特別緊急事業(H18～H22) H21年8月豪雨災害床上41戸:当該未改修区間L=1,100mにおける事業着手(H22～) 主要地方道岡谷茅野線との事業進捗の調整が必要となる。 B/C(費用対効果)=2.4 (南宮工区) H18大災害時に水防活動や避難路として湖岸を周回できる道路が重要と認識された。 住民参加状況等 期成同盟会による改修計画及び用地買収の協力、地元関係区等における河川愛護団体による美化活動が行われている。				
6	じゅうよしかわ 十四瀬川 あきち 長地  (岡谷市)	全体延長L=2,440m 護岸工L=1,780m 二層化改修L=660m 橋梁工N=7基 〔工期:H11～H25〕	休止	休止	護岸工L=1,780m 橋梁工N=1基	評価時 (変更) H22	90%	平成21年度に上流工区における二層化改修工事が完了。 平成22年度からJRと渡河部協議により休止中	ボトルネック部であるJR渡河部において、鉄道事業者との協議・調整を要するため、平成24年度は休止とする。	重要性が認められる。	「休止」
		9億9000万円	0円	0円	9190万円	必要性 B 重要性 A 効率性 A 緊急性 B	特記事項 平成21年度の諏訪圏域河川整備計画の策定(変更)において、未改修区間の整備を引き続き継続することが方針として示された。 未改修区間において、ボトルネック部にJR中央本線が横断している、JRとの協議に時間を要する。 B/C(費用対効果)=8.4 住民参加状況等 地元関係区等における河川愛護団体による美化活動が行われている。				

分野		河川の護岸築堤等		事業番号、事業名		16広域河川改修		補助・単独別		補助		建設部 河川課	
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針		
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況					
7	たがわ 田川 なせさ むらい 渚～村井  (松本市)	全体延長L=8,500m 築堤工L=17,000m 護岸工L=17,000m 床固工N=3基 橋梁工N=26橋  (工期：S26～H39)	護岸工 L=175m	護岸工 L=290m	護岸工 L=10,250m 床固工 N=1基 橋梁工 N=13橋	評価時 (変更) H19	61%	計画どおり進んでいる。 引き続き、最下流区間の護岸工の進捗を図る。	松本市市街地を流れる河川で、流域の治水に関する関心が高く、かつ整備の必要性も高いため継続とする。	重要性が高く、必要性、緊急性も認められる。	「継続」		
		54億9300万円	2億5050万円	3億3000万円	21億5010万円	必要性 A	特記事項 H20補助事業見直し：既往最大規模の洪水に対し、安全に流下させることができる治水安全度を確保することを目標とする。 H20再評価：上記をふまえ継続 奈良井川水系河川改良促進期成同盟会により早期の治水対策が求められている。						
						重要性 A	H20再評価：上記をふまえ継続 奈良井川水系河川改良促進期成同盟会により早期の治水対策が求められている。						
						効率性 B 緊急性 A	B/C(費用対効果)=7.9 住民参加状況等 河川愛護団体があり、河川の美化及び環境保全活動を実施している。						
8	ならいがわ 奈良井川 しまうち まさへ 島内～笹部  (松本市)	全体延長L=6,800m 築堤工L=17,600m 護岸工L=17,600m 床止工N=5基 橋梁工N=7橋  (工期：S16～H39)	護岸工 L=50m	護岸工 L=60m	護岸工 L=7,370m 床止工 N=5基 橋梁工 N=3橋	評価時 (変更) H17	72%	計画どおり進んでいる。 現在は田川との合流部について護岸工の整備をしており、引き続き進捗を図る。	奈良井川最大の狭窄部である区間の改修で、松本市市街地を流れる河川で、必要性が高いため継続とする。	必要性、緊急性が認められる。	「継続」		
		236億1410万円	5000万円	6000万円	65億4050万円	必要性 A	特記事項 H20補助事業見直し：既往最大規模の洪水に対し、安全に流下させることができる治水安全度を確保することを目標とする。 H20再評価：上記をふまえ継続 奈良井川水系河川改良促進期成同盟会により早期の治水対策が求められている。						
						重要性 B 効率性 B 緊急性 A	B/C(費用対効果)=7.9 住民参加状況等 河川愛護団体があり、河川の美化及び環境保全活動を実施している。						
9	めとほがわ 女鳥羽川 ふかし おかだ 深志～岡田  (松本市)	全体延長L=6,400m 護岸工L=12,800m  (工期：S24～H32)	護岸工 L=100m	護岸工 L=90m	護岸工 L=840m	評価時 (変更) H23	89%	関連河川(奈良井川、田川)と調整しながら進めている。念来寺橋まで完了し、引き続き護岸工を実施する。	松本市市街地を流れる都市河川であり、治水上必要性が高い河川であるため継続とする。	必要性が認められる。	「継続」		
		52億9480万円	9750万円	9000万円	5億6970万円	必要性 A	特記事項 H20補助事業見直し：既往最大規模の洪水に対し、安全に流下させることができる治水安全度を確保することを目標とする。 H20再評価：上記をふまえ継続 奈良井川水系河川改良促進期成同盟会により早期の治水対策が求められている。						
						重要性 B 効率性 B 緊急性 C	B/C(費用対効果)=7.9 住民参加状況等 河川愛護団体があり、河川の美化及び環境保全活動を実施している。						

分野	河川の護岸築堤等	事業番号、事業名	16広域河川改修				補助・単独別	補助	建設部 河川課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況			
10	すまきがわ 薄川 しょうない ふなつき 庄内～舟付  (松本市)	全体延長L=5,900m 築堤工L=5,900m 護岸工L=11,800m 床止工N=89基 橋梁工N=13橋  (工期：S42～H39)	休止	休止	掘削工V=83,030m <sup>3</sup> 護岸工L=1,400m 橋梁工N=2橋 床固工N=11基	評価時 (変更) H19	78%	薄川下流の奈良井川、田川の河川改修を先行させるためH2年から休止中	松本市市街地を流れる河川で、流域の治水に関する関心が高く、かつ整備の必要性も高いため継続とする。奈良井川、田川の改修を先行させるため、H24は休止とする。	必要性、緊急性が認められる。	「休止」
		21億5060万円	0円	0円	4億7840万円	必要性 A	特記事項 H20補助事業見直し：既往最大規模の洪水に対し、安全に流下させることができる治水安全度を確保することを目標とする。 H20再評価：上記をふまえ継続 奈良井川水系河川改良促進期成同盟会により早期の治水対策が求められている。				
						重要性 B	B/C(費用対効果)=7.9				
						効率性 B	住民参加状況等 下流部では、河川愛護団体による河川の美化活動が行われている。				
11	あきかわ 浅川 ふるさといなだ 古里福田  (長野市)	全体延長L=12.23km 護岸工 L=12.23km 橋梁工 N=23基  (工期：S52～H27)	護岸工 L=120m	護岸工 L=180m	護岸工 L=420m 橋梁工 N=1基	評価時 (変更) H22	96%	計画どおり進んでいる。引き続き拡幅護岸工を実施する。	河川近隣の都市化・宅地化が急激に進み、豪雨時には甚大な被害が予想されるため、浅川ダムと併せた総合的な治水対策を早急に展開する必要があるため継続としたい。	必要性、重要性が認められる。	「継続」
		222億5000万円	2億円	2億5500万円	9億1310万円	必要性 A	特記事項 浅川流域の治水対策は確実性・「治水専用ダム」と「河川改修」を河川整備計画に位置付け、事業調整を実施しながら実施している。				
						重要性 A	B/C(費用対効果)=4.1				
						効率性 A	住民参加状況等 河川愛護会、地域区民及び学童の学習の一環として清掃・除草等の活動が実施されている。				
12	さいがわ 犀川 くめじ 久米路  (長野市)	全体計画 河川トンネル L=229m,D=10m 開削工 L=150m,V=300,000m <sup>3</sup> 第2河川トンネル工 L=199.5m,D=15.0m  (工期：H11～H27)	第2河川トンネル工 L=199.5m D=15.0m	第2河川トンネル工 L=199.5m D=15.0m	第2河川トンネル工 L=199.5m D=15.0m	評価時 (変更) H20	50%	河川トンネル、右岸杉山部の開削工が完了し、第2河川トンネル工を施工中。	長野市信州新町市街地及び幹線道路の国道19号を保全すべく、再度災害防止に向け早期に治水対策を図る必要がある。三者協定(長野県、信州新町、東電)が締結されており、狭窄部である久米路峡による水位堰上げ対策等総合的治水対策を早期に実現する必要がある。	重要性、緊急性が認められる。	「継続」
		34億4300万円	1億円	5億円	17億1520万円	必要性 B	特記事項 昭和58年9月出水で信州新町中心部が浸水したため、昭和62年に久米路峡恒久治水対策を策定。 平成20年再評価 継続。 H22河川第2トンネル着手、H23トンネル掘削開始 平成22年8月 河川整備計画認可				
						重要性 A	B/C(費用対効果)=2.1				
						効率性 A	住民参加状況等 地元には各種委員会があり、県の主要事業として位置付け、緊急性を持った事業展開を実施している				

分野	河川の護岸築堤等	事業番号、事業名	16広域河川改修				補助・単独別	補助	建設部 河川課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況			
13	ひるかわ ぶじまわ 蛭川・藤沢川 かんだかわ 川・神田川 まつしろ 松代  (長野市)	蛭川 全体延長L=3,980m 護岸工L=3,980m 橋梁工N=13橋 藤沢川 全体延長L=1,868.5m 護岸工L=1,868.5m 橋梁工N=11橋 神田川 全体延長L=3,000m 護岸工L=3,000m 橋梁工N=16橋 (工期:S35~H30年代)	休止	休止	神田川 護岸工L=1,800m 橋梁工N=13橋	評価時 (変更) H20	79%	神田川上流部の改修を実施するため、計画について地元と調整の必要があり、H20年より休止中。	住宅が密集している神田川上流改修区間は流下能力が低く、河川の増水による甚大な浸水被害の発生する恐れがあることから、事業継続とする。河川改修計画(工法検討)について地元調整中のため、H24は休止とする。	必要性が高い。	「休止」
		224億3500万円	0円	0円	69億9700万円	必要性 A 重要性 B 効率性 B 緊急性 B	特記事項 平成20再評価 コスト縮減を図ったうえで見直して継続。 [蛭川工区] H8完了 [藤沢川工区] 最上流部未完成 用地買収調整中 [神田川工区] 残延長L=2,070m 工法検討中 B/C(費用対効果)=3.9  住民参加状況等 毎年 松代町河川愛護会で蛭川、藤沢川、神田川の堤防及び河川内の草刈り及びゴミ拾い等を行なっている。				
14	ちくまがわ 千曲川 いしやま 飯山  (飯山市)	全体延長L = 2,700m 築堤工L = 2700m 護岸工L = 2700m 樋管工N = 5基 水路工L = 3,100m  (工期:H4~H26)	築堤工L = 300m 樋管工N = 1基	築堤工L = 300m	築堤工L = 500m 樋管工N = 1基 水路工L = 1,136m	評価時 (変更) H18	82%	計画どおり進んでいる。 H17に1期分(1,100m)が完了し、引き続き2期分(900m)築堤工完成を目指し、3期分(700m)に着手する。	事業区間は無堤地区間であり、近年の出水でも浸水被害があり治水必要性が認められる。桑名駅前の1期工事完成済み区間での事業効果が発現されている。国土交通省千曲川河川事務所の立ヶ花及び戸狩河道掘削土を流用しながら、千曲川の上下流バランスを図った改修を事業展開を図る必要があるため継続とする。	堤防未整備区間であり、整備の必要性は認められる。	「継続」
		26億5000万円	1億4000万円	9000万円	4億7822万円	必要性 B 重要性 B 効率性 B 緊急性 B	特記事項 H18再評価 樋管を統合し2箇所減 6千万円減 H23~24河川整備計画策定中  H16年度台風23号、H18年度梅雨前線豪雨でも浸水被害が発生  H23から国交省千曲川河川事業から掘削土を築堤盛土へ流用  住民参加状況等 地元桑名川区築堤委員会を立ち上げ、工事、用地買収に協力的で、維持管理(堤防草刈り等)にも協力してもらっている。				
合計	14箇所	507億7800万円	4億4000万円	8億4500万円	101億352万円			A: 配点の75%以上 B: 50%以上75%未満 C: 50%未満			

(様式2B) 個別箇所評価総括表【継続】(要領第5の2(1)関係)

分野		事業番号、事業名				補助・単独別		補助		建設部 河川課		
番号	ふりがな 箇所名 (市町村名)	事業内容				項目毎 の評価	事業の実施状況		部意見	政策評価課意見	取組方針	
		全体概要	H23年度	H24年度	H24年度以降		H23年度未進捗率	進捗状況				
1	しょうちかわ 承知川 とんべ 富部  (下諏訪町)	全体延長 L=300m 護岸工 L=300m  (工期:H21~H26)	用地補償 1件	用地補償 1件 物件調査 1件	護岸工 L=300m	評価時 (当初) H21	3%	計画どおり進んでいる。 激特区間下流の地元調整・用地買収を進め、早期工事着手を目指す。	下諏訪町の中心市街地を流下し、流下能力が低く、流域は人家が連担している。激特区間の改修が完了し、当区間がボトルネックとなるため、早期に河川改修を行って行く必要があり、継続とする。	重要性、緊急性が認められる。	「継続」	
						必要性 B						特記事項 上流部:H18~H22:河川激甚災害対策特別緊急事業(H18年7月豪雨災害) H21~ 下流未改修区間L=300mにおける当該事業着手
						重要性 A						
						効率性 B						
緊急性 A	住民参加状況等 自治会や学校等による河川愛護活動が行われている。											
2	いの 猪の沢川 しもこいで 下小出  (伊那市)	全体延長L=423m 護岸工L=423m 橋梁工N=3基 水管橋N=1基  (工期:H17~H24)	橋梁工 N=1基 水管橋 N=1基 護岸工 L=88m	護岸工 L=19m 床止工 N=1基	護岸工 L=19m 床止工 N=1基	評価時 (当初) H17	95%	H24完了予定。	氾濫区域内にJR飯田線や国道153号等の幹線交通が存在しており、緊急性が高いため、H24年度完了を図る。	平成24年度での完了を図る。	「継続」	
						必要性 C						特記事項 平成11年6月30日の梅雨前線豪雨につづき、平成16年10月20日~21日の台風23号により床上浸水被害が発生。 平成18年7月豪雨でも災害発生。 H21年度までは、県単河川改修にて対応。
						重要性 B						
						効率性 A						
緊急性 B	住民参加状況等 地元住民や対策委員会が事業に対して用地交渉や工事施工調整など積極的に参加している。また、地元区による河川愛護活動が行われている。											
3	まがね 千曲川 しもさかい 下境  (飯山市)	全体延長 L = 405m 築堤工 L = 405m 樋管工 N = 2基 水路工 L = 238m  (工期:H16~H29)	築堤工 L=40m	築堤工 L = 80m	築堤工 L = 160m 樋管工 N = 1基	評価時 (当初) H16	21%	計画どおり進んでいる。 H21に内水排除工(水路の統合)が完了し、引き続き築堤工を実施する。	事業区間は無堤地区間で平成18年7月豪雨など浸水災害が頻発して発生しており、治水上必要性が認められる。国土交通省千曲川河川事務所の立ヶ花及び戸狩河道掘削土を流用しながら、千曲川の上下流バランスを図った改修を事業展開を図る必要があるため継続とする。	重要性が高い。	「継続」	
						必要性 C						特記事項 H16年台風23号、H18年梅雨前線豪雨により浸水被害発生。 H20年度までは県単河川改修事業にて対応。 H24から国交省千曲川河道拡幅事業から掘削土を築堤盛土へ流用予定
						重要性 A						
						効率性 B						
緊急性 C	住民参加状況等 今後、地元区による河川愛護活動について調整していく。											
合計	3箇所	24億9460万円	7700万円	6220万円	19億4768万8千円		A:配点の75%以上 B:50%以上75%未満 C:50%未満					